

「めくる×めぐる×謎解き図書館3」解答・解説

Q1

1階こどもエリアと事務室との間にあるモニュメントを見て答える問題でした。

加賀五彩の各設問の答えは、それぞれの答え（数字）は以下の通り。

平仮名の書かれた2本のビンの下にいるエビの数 → 1

黄色お椀の数+ 茶色いお椀の数にいるエビの数 → 5（黄色3、茶色2）

左を向いた牛の下にいる、右を向いた魚の数 → 3

レンコンとサツマイモの下で作業している人の数 → 4

茶色いお椀の左下の竹ザルの上にある貝の数 → 6

この数字を下の表でひらがなに変換し、色の並びどおりに読むと、「あおいと  
り」となります。

Q2

読書の庭にある11のベンチを見て解く問題でした。背もたれのないベンチは

全部で5つあり、「上から順に」読むと、「かんようく」になります。

### Q3

イラストの場所は石川県立図書館の南ノ東口付近です。

左側のガラス窓には S という文字や開館時間などが「白字」で書かれています。

また、2つの朱色のポストにも白い文字が書かれています。

これらの白い文字が書かれている場所のひらがなを消して、文字を上から読むと「かべにみみあり」という答えが現れます。

### Q4

だんだん広場と案内カウンター側の廊下を隔てる壁に、文化勲章を受章している大樋 とうやさい 陶冶斎 氏の作品が2つ掲示されています。2つの作品のタイトルは、いずれも「花鳥風月」で、左が「加賀 2022」、右が「能登 2022」です。いずれも一番大きな枠の下には「星」が描かれています。以上をあてはめて、1 2 3 4 5の順に読みますと、「しなのがわ」となります。

### 最終問題

最終指示一 に従い、4階のリングへ上がると、東側エレベータの前に最終問題があります。①から⑧は、てがかり2を埋めるとわかるのですが、4階リングを1周していただき、そこに集められた本たちに共通するテーマを解説してい

るパネルを確認していただくとわかります。

①～⑧を埋めて、赤枠の中を読むと、「最も大きな草色の長方形の下」という言葉があらわれます。

最終指示二 に従い、3階ブリッジに行き館内を見回してみると、館内天井、東西南北の方角に加賀五彩である草色、臙脂色、黄土色、古代紫の大きな布幕がつるされていて、「最も大きな草色の長方形」とは、東方向につるされた布幕であることに気がつきます。その真下に行ってみると、本棚に一つ宝箱が置かれています。その中にあるのが「真の最終問題」です。

真の最終問題は最終指示を「長」を「正」に、「3階ブリッジ」を「好きな場所」読み替えた「好きな場所に行って、最も大きな草色の正方形の下を見よ」となります。「好きな場所に行って」ということは、どこへ行ってもよいということ。どこへ行っても持っているものは、そう、問題用紙ですよ。

そこで問題用紙中の草色の正方形を探してみると、少し大きなものが2か所に記載されています。その下に書かれている文字を縦につなげて読みますと、「さとやま」（※Q1の回答を書く黄土色の正方形に書かれた文字も併せて読んでください。）「さとうみ」があらわれます。これが最終回答です。

能登半島に広がる「能登の里山里海」は、2011（平成23）年6月、日本で初めて世界農業遺産に認定されました。能登の里山里海は、田んぼ、雑木林、海岸、漁村がゆるやかにつながり、季節ごとにさまざまな生き物が行き交う豊かな環境を育んできた地域です。

農業や漁業を通じて自然と向き合い、無理なく資源を活かしながら守り続けてきた暮らしは、トキが生きるために欠かせない湿地や餌場を育てる仕組みそのものでもあります。こうした人と自然の共生が息づく能登の地から、2026（令和8）年度、ついにトキが大空へはばたきます。

このことを、みなさんに改めて知っていただきたく、今回の答えは「さとやま・さとうみ」とさせていただきます。